

□ シアでは、駅の売店と高級スーパーでは、新聞の値段が違います。同じものが買う場所によって値段が違うなんて……日本では考えられません！

雪で滑らないようにブーツを加工してもらった時のこと。明らかに酔っ払っている職人のおじさんが数人、私のブーツを見て「1000ルーブルだなー」と見積もりました。支払おうとする私に向かって一人のおじさんは「どこの国の人だ？」と尋ねました。奥では別のおじさんたちが「オレは中国だと思う」「いや、中国は目が細いのだ。あの

## 値段

丸い目は絶対日本だね！」「いやいやベトナムだ」「いや中国」……などと、思い思いに口にしています。「日本人です」。そう私が答えると、皆一斉に机を叩いたり、持っていた金づちで革靴を叩いたりして悔しがっています。

すると、先ほど1000ルーブル！と見積もったはずのおじさんが「ほら、俺の予想通り日本だ！ よし、お嬢さんは400ルーブルでいいよ！」と言いました。……こんなことで半額以下に!?



## 夕

クシーに乗ると、話好きなロシア人運転手がさっそく話しかけてきます。「どこから来たの?」「学生? それとも社会人?」「名前はなんですか?」。このくらいはいいとしても、「何歳ですか?」「お給料はいいですか?」「結婚していますか?」などなど、日本人なら初対面には遠慮するよう教えられているようなプライベートな質問が続きます。

タクシーに乗車してわずか数分だというのに、運転手の話は止ま

## ストレートに

りません。「娘が結婚しようとしているのだが、相手の男の職業がどうも気に食わない」とか「給料が安く○○ルーブルだから、△△みたいな仕事に転職しようと思ってる」とか「親戚が××といった病気にかかり、今大変な治療をしている」などなど、日本人ならよほど親しくならなければ打ち明けないと思われるような家庭内事情まで聞かせてくれます。

日本人は「私は大丈夫です。特に問題はありません。うまくやって

